

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人本部及び各施設幹部により、「笑顔と思いやり、共に暮らし、安らぎと喜びを分かち合う」を、法人の理念として見直し、掲げている。特養・グループホームは地域密着型であり、理念の追求して行きたい。	理念は、パンフレットや来苑者にも理解してもらえるように掲示している。 家族の面会時間の制限はなく、気楽に立ち寄れるようにしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の大半が新規採用である。採用面接時、入職研修時に、「理念」を話している。また、基本方針書を各職員に配布している。	○  基本方針書を配布しているが、職員がどこまで読みこなし、理解しているかは疑問。入居者個々が、満足できる生活支援を日々取り組んで行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご利用説明や、全体行事等では必ず「理念」をお話している。地域住民の内覧会や、地区の役員とともに、独居老人への食事会を開催。地域で暮らし続けるための社会資源として理解して頂くように説明している。	地域役員、民生委員等には運営推進委員に就任して頂いている。地域の中の福祉施設として意味あるものにするため、さらに交流を進めたい。(H20年度には、小学校運動会参加、秋祭りでの「だんじり」訪問等関係づくりがスタート。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	運営面での地域役員等の協力の他、地域の中高齢者を採用し、地域の方が気軽に立ち寄れる環境作りをした。他、女性専用フィットネスや鍼灸院の開院も目的の一環である。	○  H21.1より地域ボランティアによる、苑内喫茶をオープン(現在週1回)新年度よりフィットネス利用者から始め、地域の方が利用できる喫茶運営を行う。また中庭で、地域の高齢者と小学生が共同で取り組める「お花」づくりを計画して行きたい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・老人会には参加していないが、地域の行事(小学校運動会、道明寺天満宮のだいこん炊き)等には招待を受け、参加した。運営推進会議に地区長・副地区長が就任して頂いているので、常に情報提供がある。	H20年度には当苑「夏祭り」や「関西フィルハーモニー」の演奏会等に招待した。 H21年度は上記の取り組みを、地域と相談しながら進めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	総合福祉施設として10事業を実施している。上記3（地区独居老人の食事会実施） H21.1から地域高齢者向けに「健やか健康講座」を開催している。		地域の安全・安心のための取り組み
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めて、外部評価を受審する。利用者評価・自己評価・外部評価を参考により良いサービスが提供できるように取り組んでいきたい。		入居者の計画作成はカンファレンス（入居者・ご家族）参加のもと実施している。ご家族参加は必須で、色々な情報を共有していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	H20.7～運営推進会議（特養と合同開催）を開催。日常生活の様子や取り組みを具体的に報告し、内容については理解を得ている。この場での意見は職員ミーティング等で伝え、検討している。	○	運営推進会議のメンバーには地域の役員も多く、グループホームの運営に非常に協力的である。地域の力や意見を取り入れ、サービス向上に活かしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム・特養が地域密着型のサービスであり、当該市としても運営には協力的である。		現在、運営推進会議以外での来苑はない。支援の質の向上のため、来苑できる機会増を検討する。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の1名がH21年より成年後見制度を活用開始。		今回の事例を踏まえ、再度職員と地域権利擁護事業や成年後見制度を学ぶ機会を持ちたい。権利擁護に関する研修参加を促進する。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現時点では研修会等に参加していない。		職員に高齢者虐待防止についての情報提供するとともに、外部研修会への参加を促進する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>事情があり解約された後も、本人や家族の希望があれば随時相談には対応している。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>家族については、面会訪問時やカンファレンスへの参加を通じて、入居者の情報を得るとともに、意見や不満等を確認して行きたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	<p>定期的な報告が行えていないので、定期的に報告が（グループホーム便り）行えるように検討する。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>介護相談員については、来苑の目的や顔写真を掲示しているが、馴染みが少ない。入居者が介護相談員に馴染む機会を増やすことを検討したい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>意見・提案は全職員と共有し、検討、納得・理解をしていくこととしたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>すでに日勤の時間帯を2度変更し、様子を見ている。年末年始には初詣客のにぎわいから夜勤者を増員して対応した。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年4月末事業スタート後、非常勤職員の異動（退職）があったが、幸いに入居者に動揺はなかった。今後も離職を最小限に抑えるため、働きやすくやりがいのある職場づくりを心掛けたい。		職員のコミュニケーションを円滑にするため、ミーティングだけでなく、気分転換が図れる場を作っていきたい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に全体研修、各事業毎の研修を実施した。グループホーム内の研修が停滞しているので、外部研修等参加の機会を設けたい。	○	グループホーム部会に（府）加入する。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	藤井寺市のグループホーム部会には参加しているが、そのものが機能していないので、活動していない。他市で運営しているグループホームから情報をもらう機会が多い。		左記のグループホームには事業所には、全職員を研修で受け入れて頂いた。常時部会加入で、ネットワークづくりをしたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々ストレスを抱えながら入居者の生活支援を行っている。現時点では、入居者の笑顔をみることが安らぎになっている。職員個々のストレス軽減のため、意見を聞く機会を設けて行きたい。		職員のコミュニケーションを円滑にするため、ミーティングだけでなく、気分転換が図れる場を作っていきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人の運営方針として、「職員を大切に」「人としてのスキルアップ」を掲げている。そのために法人専用の研修センターを設けているが十分に活用されていない。H21年は2年目となるので、個々のニーズを確認しながら取り組んで行きたい。		グループホーム職員の2名が介護支援専門員試験に合格した。個々が3年後、5年後にどのようになりたいのかを確認し、そのためにどのような取り組みを行っていくのかを検討して行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、施設見学、事前面接の依頼があれば随時行う。利用に至るまでに本人が関わる機会は家族ほど多くないので、本人が一番望んでいることをゆっくり聞き取り、受け止めることで安心を感じてもらえるように努めている。	認知症の不安と知らない人間との関わりで、さらに不安を大きくしたり、混乱を招かないよう、現状の本人と、本人の生活を受け止めながら、話をするように心がけている。
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、施設見学、事前面接の依頼があれば随時行う。現在、家族がおかれている状況を詳しく聞く中で、家族が一番困っていること、本人に対する思いをゆっくり聞き取り、受け止めるように対応している。	施設の職員に話をするまでに抱えていた苦労や不安を話をすることで、少しでも和らげることが出来、利用に至るまで家族が迷いや罪恶感を持つことなく安心して、本人を任せてもらえるような援助を心がけている。
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られる時の本人の状況は、様々の為、今家族が一番困っていること、一番望んでいること、本人に対する思いを聞くことで、まず必要としている支援を見極め、家族と支援の方向性について話を進めるようにしている。他のサービスや他職種と連携が必要な場合は家族了解のもと行っている。	現状ではグループホームの利用とならない場合も家族の希望があれば、相談援助は継続している。
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人がそれまで過ごしてきた環境となるべく近い生活空間に整え、個別対応の時間を多く取り、少しずつ慣れていくように支援している。家族の対応が可能であれば、試し利用も行ってる。	家族の申し出があれば、家族も一定時間一緒に過ごされ、本人の不安を取り除けるようにしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームで過ごす時間は職員も入居者も同じ家族の一員として過ごしている。一方的に関わるのではなく、本人の中にあるその時その時の心情を共感や理解し、そのことを相手に伝えようと努めながら時間を共にしている。	心情を表わしにくい、または心情と食い違う表し方をされる人についても表情や動作、普段からの特有の表し方などを情報として受け止め、信頼関係を築いて行けるよう対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人が現在の場所にて生活していることについて無理なく受け止めることが出来、それでも残る心情を理解しながら本人を共に支えるチームの一員としての関係が築けるよう努力している。		心情を表わしにくい又は、心情と食い違う表し方をされる人については表情や動作、普段からの特有の表し方などのほかに、家族が工夫や理解をしている表現方法がないか家族と一緒に考え、共に本人を支える関係を築いていけるように対応している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	どの家族にとっても大切な存在であることを十分理解し大切に思っているから認知症が進行し、変化していくことを受け止める家族の辛さを理解し、本人と家族がより良い関係を築いていけるように支援している。		本人の変化を受け止めきれず、面会を躊躇していたり、家族間の意見がまとまらず、もめている家族についてもそのことが障害にならず、本人とのより良い関係が築いていけるように支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	元気な時から本人が利用していたスーパーや医院、美容院などを引き続き利用している。	○	馴染みの人や場所との関係がやむ得ず途切れてしまった入居者は、新しい関わり方で地域が新しい馴染みの人や場所となるように努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者一人一人の性格や特徴を理解し入居者同士が無理なく関わられるよう食堂での座席の位置や会話などを工夫している。		他の入居者との交流が図れず、孤立してしまう人に対しても日中の限られた時間だけでも穏やかに交流できるよう工夫している。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	試し利用であったが、サービスを終了した利用者や家族とも会う機会があり、交流を続けている。		総合福祉施設という特徴をふまえ、グループホームとの契約が終了しても当施設との関わりは続いていることが想定できる。グループホームの枠をこえて他の部署との連携にて利用者や家族を支えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活を共にする中で、本人との会話が困難な場合は、日々の様子や表情、身振り、面会時の家族の情報から把握するようにしている。	日々の様子に変化していくので、その時その時の思いや意向が変化するため、新しい情報をいち早く把握できるように努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方などを聞かせて頂いている。また、日々の生活のなかで、疑問となった事柄についてもそのつど本人や家族の来所時に聞き、把握するよう努めている。	本人との関わりが少なく、家族も知り得ないことが多くある。認知症の為、本人からの情報には限りがあるが、入居者・家族との関わりを密にし、把握するよう努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間途切れることなくチームで業務を引き継ぎながら、入居者の様子や心身状態、有する力等の現状を職員全員で把握している。シフトの都合で即日全員が把握できない情報は、連絡ノートに記入し伝達している。	毎日様子に変化し、認知症の周辺症状が多く見られる人の現状を、周辺症状が現れる原因も含めて把握出来るように努めている。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議やケースカンファレンスを開催し、本人に必要な支援とその具体的な方法について話し合い、その内容を反映させた介護計画を作成している。また、日程の都合で参加出来ない関係者の意見も確認の上介護計画に反映させている。	本人の意向が十分反映できず、介護者本位の計画になっていないかを見極め、利用者本位の介護計画を作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し機関や認定更新時、体調の変化で見直しが必要な時には、家族や必要な関係者と話し合い、現状に即した計画を作成している。	○ 認知症の進行が早かったり体調の急変にて本人、家族や必要な関係者との話し合いが十分ではなく、意見等が十分反映出来ない時がある。現在の本人に必要な課題とケアのあり方について機会を外すことなく話し合い、また現状に即した計画を作成するように努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫は生活記録や支援経過記録に記入している。日々のケアの中で気づきや工夫は全員で共有しケアの変更と検討され、介護計画の見直しに活かしている。		入居者・家族の意向を踏まえた、介護計画の立案と実践を心掛けている。より良い支援のためにも家族参加のカンファレンスを継続する。
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	物品購入、急な受診や家族の体調不良時など家族の対応が困難な時は柔軟に対応している。家族の精神的なストレスや心配についても出来る範囲で対応している。		家族の希望にて福祉用具の購入の連絡も行っている。相談業務は随時行っている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域役員（地区長・民生委員等）から行事の誘いや、行政からの情報の伝達等ある。	○	施設内の行事ではボランティアの協力はあるが、グループホームとしての関わりはまだ行っていない。今後検討し関わりを持っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の体調を考慮し家族の希望にて福祉用具貸与（介護保険外サービス）を利用している。		体調に応じて適切なタイプが使用できるよう家族やサービス業者と相談し必要であれば見直し、物品を変更している。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点では行っていない。		運営推進会議のメンバーに、地域包括支援センターの職員にも加わって頂いているので、必要に応じ協働できる体制を図る。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医はそのまま変わらず受診は家族に協力してもらっている。可能な場合は往診もお願いしている。今までのかかりつけ医の受診が困難な場合は施設協力医に変更することも可能である。必要時には職員が同行する。		受診前には現在の体調と服薬内容、確認事項を書面にて準備し、職員が同行できるようにしている。受診結果も同書面に記録し、受診の経緯を職員が周知できるようにしている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に往診に来られるかかりつけ医の中の専門医と連携し本人の様子を伝え必要な対応や服薬内容について相談検討している。医師から処方された薬を調剤する薬剤師にも必要時には専門的な見地からの相談を行っている。		現在4名が専門医と連携している。うち1名の主治医は内科医であるが、医師同士との連携により医師2名にて体調を管理している。認知症の進行に併い、専門医の治療の必要性は高くなっていくと思われる。現在落ちている入居者の今後についても本人、家族と十分話し合い、方向性を確認している。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設内の看護師により、緊急時の対応（夜間は電話相談）が可能である。		今後は地域の中の看護職とも相談窓口を作っていきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	現在1名の入院者がいるが、治療の方向性や退院後の生活について必要な場合は医療相談員と情報交換を行っている。		現在の状況は家族から報告があるが、多忙な様子の為、必要時のみであり、不安を抱えておられる。家族の不安の軽減と早期退院に向け、またその後の生活も視野に入れた連携をとっている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業スタート時よりすでに重度化の傾向にあり、症状の進行が非常に早い入居者もおられる。症状の変化については随時家族及び主治医に報告し、対応を検討している。終末期については、家族と相談の上検討して行きたい。	○	入居者が重度化している現状では、ターミナルケアは必須である。取組を前提とした方針の共有化を図って行きたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期ケアを実施するという点では理解を得ているが、チームケアの体制を検討、構築して行きたい。		グループホームとしては、延命治療はできないことを家族に理解、納得してもらった上で、見守を中心としたケアの中で、本人らしい終末を迎えられるよう支援できる体制を目指す。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時には本人、家族と相談の上、馴染みの家具や持ち物を持参してもらい配置し、不都合が出た場合は家族や担当者と相談の上、改善している。入居時の不安軽減のために個別対応の時間を多く持ち落ち着いてもらえるようにしている。		本人の生活リズムを妨げないように対応しながらグループホームの生活リズムに慣れていくよう支援している。どうしても落ち着かれない場合、帰宅願望が強い時は家族の協力も得ている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本理念の中にある『共に暮らし』の気持ちを忘れず、一緒に過ごす時は家族として対応している。個人情報については施錠出来る所で保管している。		日々の介護の場合において、入居者を不快にしまう言葉かけや対応をしないように心がけている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活の中で出来る限り思いや希望を表わせるような声かけや選択しやすい、またはしたくなるような対応を行っている。		思いが表せなかったり、納得しない時も本人が満足できるよう対応している。朝の身じたくも本人の意向にそって決定している。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、一人一人の思いやニーズを優先した行動を行っている。	○	日常生活全般に介護や見守りが必要な入居者がほとんどの為、やむを得ず業務優先になる場合もある。一人一人の希望にそって対応出来るように努めたい。
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	各居室の洗面台には普段使っている化粧品やブラシがあり自分で出来る人は毎朝丁寧に整えておられる。理容、美容は行きつけ、または地域の店で本人の意向を確認しながら行っている。身だしなみに必要な物品は家族や本人と相談して揃えている。		自分からの希望や意向が表しにくい人についても元気なころの本人の意向や様子を家族に確認し、家族の協力を得ながら行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3度の食事の調理は行っていないが行事食やおやつを作っている。また入居者の出来る力に合わせて食事の盛り付けや後片づけも行っている。		力があるにも関わらず、活かしきれていない人についても検討し、無理のないように一緒に関わっている。
55	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好きなものを本人や家族に確認し、飲み物やおやつはおやつの時間に出している。それ以外の時間や本人希望時は食事の妨げにならない程度にしている。お酒、タバコは希望者が居ないので提供していない。	○	お酒については日常的に希望はないが、特別な時には飲みたいとの希望はある。個々の体調に合わせて楽しんでいただけるように検討したい。
56	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のリズムや尿量等を細かく記録し、一人一人に合った援助方法をやむを得ず、おむつを使用するときはおむつの種類や使用方法を、十分検討して援助している。		体調の変化によりトイレ誘導が可能であった人もおむつ使用になっている。本人の能力や家族の意向も一緒に検討し本人にとって快適な援助となるよう取り組んでいる。
57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	8名中4名が機械浴（ストレッチャー、座位、2名ずつ）3名個浴にて対応している。日中の外出や主治医の往診等を考慮し、本人の意向を確認の上無理のないように実施している。入浴をしない日は肌着の着替えを行っている。		機械浴4名については、特養スペースを利用しているため、100%希望やタイミングに合わずことは困難であるが可能な限り対応して行く。
58	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は食堂やリビングで過ごすことがほとんどであるが、昔から昼寝の習慣のあった人には夜間に影響がない程度に休息の時間をとっている。		夜間は定時の巡回以外にも一人一人の睡眠や排泄リズムに応じた安全確認を行っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活に必要なものを一緒に買い物に出かけたり、地域や苑内での季節の行事に参加している。行事の中で自分で出来ることは一緒に行っている。		ほとんど自分で動くことの出来ない人や意思疎通の困難な人にも本人の意向や動作を家族の協力により、確認しながら楽しみ、気晴らしを行っている。力を活かした役割も検討し、入居者に無理のないよう支援している。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者全員が自分でお金を管理したり、使うことは困難のため、日々の生活でお金を所持している人はいない。外出行事の時や日々の買物の時に家族や職員と一緒に好きな物を買ったり食事をしたりしている。		個々の居室にて本人がお金を管理することは困難であるが、紛失しないよう管理は出来ない事を家族が了解の上で所持している人はいる。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は日々の買い物、散髪や散歩、また、ちょっとした用事で外へ出かける時など声かけをして無理のないように出かけている。		外出の回数や範囲はまだ入居者の希望に十分そえていないが、可能な限り機会がもてるように努めている。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族参加の外出行事や個々の希望にそって外出している。		外出の回数や範囲はまだ入居者の希望に十分そえていないが、可能な限り機会がもてるように努めている。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話や手紙を出したいとの申し出はないが、家族が本人との連絡用に居室に携帯電話を設置していたり、個々に届いた手紙については本人に手渡ししている。	○	本人からの申し出があった時は、家族と検討し本人にとって負担にならないように支援したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限はなく、会いたいときにはいつでも訪問してこられる。また、本人の居室の他にも、リビングやテラスなどいろいろな場所にくつろげるスペースを用意している。		訪問者に対しては、常に明るく対応し、ゆったりとくつろいでもらえるように場所を準備したり、入居者との時間を邪魔しない程度に会話も楽しんでいる。帰っていかれる時は、訪問のお礼と、また来てもらえるように挨拶をしている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日のケアの中で身体拘束は行っていない。		職員は身体拘束を行わないケアに取り組んでいるが、やむを得ず必要な場合の取り組みの為に介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を常に正しく理解出来るように学習や検討を続けたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>鍵をかけないことで、グループホームでの人の出入りを制限することが出来ず、安全確保が出来ない場合がある。鍵をかけずにそれらの問題が解決出来るように取り組みたい。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		<p>本人にとってリラックス出来、負担にならないように十分配慮しながら所在や様子の確認を行っている。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>ハサミや包丁などは鍵のついた引き出しや事務所にて、薬全般は事務所の鍵の付いた棚にて保管している。入居者がハサミを使うときは必ず職員と一緒にいる。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		<p>ヒヤリハットや事故報告書での内容をふまえ事故防止のための職員全体の勉強会を充実させたい。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>個々の急変時の対応については家族や主治医と相談の上、実施方法を定め、わかりやすい場所に備えてある。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>災害発生時には地域の人々の協力を得られるよう今後働きかけていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	カンファレンスや家族の面会時、または体調に変化のあった時に本人の様子とそれに伴う起こり得るリスクについて説明している。リスクに対する対応策も話し合いながら実施している。		症状は日々変化するものであり、その都度対応の検討が必要となる。家族、主治医との連絡を密にとりながら検討している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、及び必要時に血圧、脈拍、体温、その他身体の様子を確認と記録を行っている。職員交替時にはその結果や様子について申送りを行い、情報を共有し、必要な対応がある場合は確実に出来るようにしている。		個々の体調変化や異変の早期発見のためには日頃より入居者の状態をよく観察し確認することが重要である。今後も個々の入居者とより深く関わり早期発見と適切な対応に努める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の入居者の主治医が週1回～月1回定期的に往診し体調に応じて出された処方指示のもと服薬を支援している。服薬している薬の目的、副作用、用法用量は毎回調剤薬局より説明があり、その内容は常に確認出来るようファイルしている。		主治医の往診には、必ず計画作成担当者が立合う。状況報告とともに質問や薬の見直し等をしてもらい、全職員に伝達する体制にしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の食事の時やおやつ、その他、水分を摂れるようにしている。本人への確認と排泄介助の結果をチェック表に記録することで排便の様子を確認している。		個々の体調により排便が期待できる飲食物を生活の中から家族と一緒にみつけ摂ってもらっている。3日以上排便がみられない場合は、主治医と相談し改善に努めている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、うがいや歯磨き、義歯洗浄をしている。口の中に汚れがないよう職員が確認や磨きなおしも行っている。また、職員の適切な対応の指導や口腔ケアの道具の交換は施設の歯科衛生士が行っている。		治療や指導が必要な入居者には家族と相談の上、歯科医の往診や歯科衛生士の指導を受けている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や必要時の水分摂取量を確認を行っている。自力で食事をとることが困難な人にはその能力に応じた介助を行っている。食事形態も体調に合わせて水分摂取は食事をおやつ時以外にも本人希望時等随時行っている。		栄養や水分を摂るというだけではなく、本人にとって美味しく楽しみとなるように摂り方が出来るように努めている。体調により食べる量の調整が必要な時は主治医の指示にて管理栄養士と相談の上行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	施設内感染症対策委員会があり、マニュアルに基づき職員全員に対応について伝達している。グループホームの入居者、職員全員にインフルエンザの予防接種を実行している。		外部からの持ち込み予防として職員全員の出勤時、手洗い、うがい実施と体調管理を厳守している。面会者にも手洗い、うがいや手指消毒をお願いしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫、食品庫や食器棚は定期的に点検、清掃を行っている。食品は賞味期限を確認し、調理したものは2時間以上は残さないようにしている。		食事を行うテーブルは毎食前後にミルトンで消毒している。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には常に鍵がかかっておらず、いつでも安心して出入りできる。		グループホーム自体は複合施設の2階にあるため、外部からという点では存在をしらない限り困難である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから食堂にかけては北側以外は大きな窓となっており、太陽の光や外の様子で四季や日々の天気を感じることが出来る。また地域の様子や人の流れを見ることで室内にいても地域の中で暮らしていることが実感出来る。		落ち着いた写真や絵画を所々に配置することで、食堂とは違った居心地の良さとなっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビング、食堂横のデッキスペース、グループホーム入口横、スペース等、いろいろな場所に自由な過ごし方が出来るようにしている。		体調や日によって、一人一人の居場所は少しずつ変化する。その日の様子により全員が落ち着いて過ごせるように居場所作りも工夫している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談し使い慣れたものや好みのも ので落ち着いて過ごせるよう工夫している。体調 の変化により工夫がさらに必要となった時も本人 や家族と相談し必要な物品がある場合はなるべく 使い慣れたものを持参してもらっている。		認知症の進行にあわせ自分の部屋であることや物 に対する理解力が低下してきた人に対しても本人 にとって負担にならずに居心地よく過ごせるよう に家族も一緒に工夫をしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	各居室は起床後、共有スペースは朝食後、昼食後 に換気を行っている。季節に応じて除湿機や加湿 機を使用し湿度調節し、温度は外気と大きな差が 生じないよう温度計で確認しながら調節してい る。		個々の入居者により快適な空調は様々で、居室の 場所によっても微妙に温度差がある。本人にとっ て快適であうように常に心がけ調節している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	個々の身体機能に応じて必要な時は福祉用具を活 用している。居室は立ち座りの動作でも自然と身 体機能が活かせるよう和室が中心となっている。	○	テーブル・イス、ソファ等入居者（高齢者）が残 存能力を活用できる高さを考慮し配置している。 能力の変化とともに対応できる環境整備を図りた い。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室の入口には表札をかけ、他の人の部屋と間違 われないようにしている。居室のトイレの入口戸 は特徴があり、ひと目でトイレと分かるようにな っている。		誘導でトイレに行く人の中にはトイレが理解出来 ない人がいる。職員が一緒でもトイレと分からず 拒否されるので、混乱しないよう工夫したい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	東側の庭には花の苗や種を植え、水まきを一緒に したり種取りを楽しんだ。来年にまた咲かせたい と種は大切にしまっておられる。中庭は洗濯物を 干したり天気の良い日はテーブルを出しておやつ を食べたりしている。		個々の居室の外にも庭があるので、自分の部屋の 庭での楽しみを一緒に考えたい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

複合型の福祉施設（ケアハウス、特別養護老人ホーム、ケアプランセンター、ショートステイ、デイサービス、訪問介護、訪問看護鍼灸院、収益事業として女性専用のフィットネス）の利点を活用して入居者・ご利用者個々の生活支援に取り組んでいます。建物は「家」をコンセプトに設計事務所と協議しながら完成にいたりしました。グループホームと特別養護老人ホームは、地域密着型の事業として、道明寺地区の一員としての関わりも多くなってきました。法人理念である「笑顔と思いやり、共に暮らし、安らぎと喜びを分かち合う」の実現に向け、ハード、ソフト両面からサポートして行きたいと思えます。